

慢性疾患患者における服薬コンプライアンスの向上
- 機能的アセスメントに基づく援助 -

立命館大学応用人間科学研究科
対人援助学領域
障害・行動分析クラスター

本研究は、慢性疾患を持ち服薬治療中の外来患者 3 名に対して機能的アセスメントを実施し、個別的な援助方法を作成・評価することを目的とした。本研究は、研究実施者が看護師として所属する循環器内科医院において実施した。

対象者の選定条件は、・毎回の診察に来ていることと、・服薬コンプライアンスが良くないため治療効果が有効に挙げられていないと考えられる外来患者であることとした。選定条件を満たす対象者を医師から紹介され、その中より選定を行った。従属変数は、・「残薬数」、・「血液検査結果」とした。

まず、各対象者からの聞き取り調査を中心に機能的アセスメントを行いそれに基づく援助計画が立案された。聞き取り調査は、研究実施者が勤務中に対象者が診察を待つ時間や検査時間を利用し、3分程度行った。次に、その計画に基づいた援助を実施した。援助介入は、対象者の検査時間や診察終了後の薬剤を処方される間の時間を利用し、5分程度で終了するように行った。

その結果、対象者 3 人中 1 人について血液検査結果が改善した。これは薬剤投与量に変化がないことから間接的に服薬コンプライアンスが向上したことを示している。以上の結果をふまえ、援助計画について各対象者の有効性と今後の課題について考察した。